



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年1月29日

上場会社名 株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ
 コード番号 5726 URL <http://www.osaka-ti.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西澤 庄藏
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 島本 信英
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 06-6413-3310

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	32,595	△25.9	1,884	△42.1	1,707	△41.3	△1,508	—
25年3月期第3四半期	43,976	△2.4	3,256	△38.5	2,909	△39.1	1,757	△34.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△40.99	—
25年3月期第3四半期	47.76	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	114,041	42,541	37.3
25年3月期	127,448	44,129	34.6

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 42,541百万円 25年3月期 44,129百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	15.00	—	5.00	20.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,500	△20.3	700	△82.9	△300	—	△2,400	—	△65.22

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注)詳細は【添付資料】P.4「サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は【添付資料】P.4「サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	36,800,000 株	25年3月期	36,800,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	1,194 株	25年3月期	1,194 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	36,798,806 株	25年3月期3Q	36,798,806 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、金融緩和をはじめとした経済政策による円安の進行等により景気の緩やかな回復の動きが継続したものの、電気料金の値上げや海外景気の下振れ懸念等により、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当社事業につきましては、チタン事業では、輸出向けにおいて航空機の製造は堅調に推移しているものの、一昨年後半から顕著になったサプライチェーン内での在庫調整やスクラップ配合増加の動きが続いており、また国内向けでも一般産業向け全体の需要低迷に加えユーザーでの在庫調整が継続し、輸出向け、国内向け共に販売量が減少しました。これを受け一昨年7月より段階的に減産幅を拡大しているスポンジチタンの減産を昨年11月より一段と強化しました。この結果、チタン事業の売上高は19,241百万円(前年同期比30.1%減)となりました。

ポリシリコン事業では、半導体用ポリシリコンの需給調整継続により販売量が減少し、売上高は12,181百万円(前年同期比18.6%減)となりました。

高機能材料事業では、液晶分野でのTILOP(タイロップ)、半導体分野での高純度チタンの販売減により、売上高は1,172百万円(前年同期比20.2%減)となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は32,595百万円(前年同期比25.9%減)、損益につきましては、営業利益1,884百万円(同42.1%減)、経常利益1,707百万円

(同41.3%減)となりました。また四半期純損益につきましては、ポリシリコン事業並びにチタン溶解事業の生産体制集約に伴う事業再構築費用3,591百万円を主体に特別損失3,741百万円を計上したこと等により1,508百万円の損失(前年同期は1,757百万円の利益)となりました。

(参考) 事業別売上高 (単位:百万円)

		当第3四半期	前年同期	増減率(%)
チタン事業	国内	7,649	12,342	△38.0
	輸出	11,591	15,198	△23.7
	計	19,241	27,541	△30.1
ポリシリコン事業		12,181	14,965	△18.6
高機能材料事業		1,172	1,469	△20.2
合計		32,595	43,976	△25.9

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

① 資産

当第3四半期末の総資産の残高は、114,041百万円と前事業年度末と比べ13,406百万円減少いたしました。これは、売掛金及び有形固定資産が減少したことが主な要因であります。

② 負債

当第3四半期末の負債の残高は、71,499百万円と前事業年度末と比べ11,819百万円減少いたしました。これは、支払手形及び買掛金や借入金が減少したことが主な要因であります。

③ 純資産

当第3四半期末の純資産の残高は、42,541百万円と前事業年度末と比べ1,587百万円減少いたしました。これは、四半期純損失と配当金の支払により利益剰余金が減少したことが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の通期業績につきましては、引き続き生産諸元の改善、労務費・経費の圧縮、設備補修費削減等のコスト合理化に取り組んでまいりますが、チタン事業をはじめとした厳しい販売環境による棚卸資産の評価損の発生も第4四半期に見込まれ、為替相場の動向も先行き不透明な状況であることなどから、2013年9月4日発表の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 一般債権の貸倒見積高

前事業年度末に算定した貸倒実績率と著しい変動がないと認められるため、当第3四半期末において、前事業年度の財務諸表作成で使用した貸倒実績率を用いて算定しております。

② 棚卸資産の評価方法

第2四半期末の実地棚卸高を基礎として継続記録法により棚卸高の算定をしている棚卸資産については、当第3四半期末の実地棚卸を省略しております。

③ 税金費用

年間の税引前当期純利益に対する税効果適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しましては、前事業年度に対し一時差異、経営環境等に著しい変化がある場合においてはその影響を加味しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更)

当社のポリシリコン製造設備について、岸和田工場の生産能力増強投資を中心とした大型設備投資の実施を契機として製造設備全体の物理的耐用年数を精査した結果、耐用年数を7年から12年に見直し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の営業利益が1,259百万円、経常利益が1,282百万円それぞれ増加し、税引前四半期純損失が1,282百万円減少しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (2013年3月31日)	当第3四半期会計期間末 (2013年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,421	3,171
受取手形及び売掛金	19,361	13,942
商品及び製品	12,787	13,435
仕掛品	5,197	4,905
原材料及び貯蔵品	9,778	8,588
その他	1,535	1,756
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	52,079	45,797
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	15,477	14,510
機械及び装置(純額)	38,271	32,224
土地	16,279	16,094
建設仮勘定	987	1,113
その他(純額)	1,356	1,205
有形固定資産合計	72,371	65,148
無形固定資産	1,292	1,211
投資その他の資産	1,705	1,884
固定資産合計	75,369	68,244
資産合計	127,448	114,041

(単位:百万円)

	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (2013年3月31日)	当第3四半期会計期間末 (2013年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,895	3,545
短期借入金	32,350	16,400
リース債務	1,417	574
未払法人税等	1,307	—
賞与引当金	362	87
事業再構築引当金	—	133
設備関係支払手形	130	132
設備関係未払金	703	877
その他	862	1,143
流動負債合計	44,029	22,892
固定負債		
長期借入金	36,500	45,000
リース債務	4	3
退職給付引当金	1,416	1,504
事業再構築引当金	—	814
資産除去債務	1,246	1,266
その他	122	18
固定負債合計	39,290	48,606
負債合計	83,319	71,499
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,739	8,739
資本剰余金	8,943	8,943
利益剰余金	26,499	24,807
自己株式	△9	△9
株主資本合計	44,172	42,480
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	89	124
繰延ヘッジ損益	△132	△62
評価・換算差額等合計	△43	61
純資産合計	44,129	42,541
負債純資産合計	127,448	114,041

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2012年4月1日 至2012年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2013年4月1日 至2013年12月31日)
売上高	43,976	32,595
売上原価	36,409	26,744
売上総利益	7,566	5,850
販売費及び一般管理費	4,309	3,966
営業利益	3,256	1,884
営業外収益		
受取利息及び配当金	2	1
為替差益	—	515
不用品売却益	76	93
受取賃貸料	39	36
助成金収入	46	—
その他	41	15
営業外収益合計	206	663
営業外費用		
支払利息	433	407
為替差損	108	—
休止固定資産減価償却費	—	174
その他	12	258
営業外費用合計	553	840
経常利益	2,909	1,707
特別損失		
固定資産除却損	75	150
事業再構築費用	—	3,591
ゴルフ会員権評価損	0	0
特別損失合計	76	3,741
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	2,832	△2,033
法人税等	1,075	△525
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,757	△1,508

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2012年4月1日 至 2012年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	チタン事業	ポリシリコン事業	高機能材料事業	
売上高				
外部顧客への売上高	27,541	14,965	1,469	43,976
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	27,541	14,965	1,469	43,976
セグメント利益	1,982	1,231	43	3,256

(注) セグメント利益と四半期損益計算書上の営業利益とに差額は生じておりません。

当第3四半期累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	チタン事業	ポリシリコン事業	高機能材料事業	
売上高				
外部顧客への売上高	19,241	12,181	1,172	32,595
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	19,241	12,181	1,172	32,595
セグメント利益又は損失(△)	850	1,126	△92	1,884

(注) 1. セグメント利益又は損失と四半期損益計算書上の営業利益とに差額は生じておりません。

2. 「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、当社のポリシリコン製造設備について、岸和田工場の生産能力増強投資を中心とした大型設備投資の実施を契機として製造設備全体の物理的耐用年数を精査した結果、耐用年数を7年から12年に見直し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の「ポリシリコン事業」のセグメント利益が1,259百万円増加しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「チタン事業」セグメントにおいて20百万円、全社資産において559百万円の減損損失をそれぞれ計上しております。